

イエスのことば 第10回

「あなたがたは、しるしと不思議を見ないかぎり、決して信じません。」(ヨハネ 4 : 48)

□文脈の確認

1. メシアはユダヤ人の王として来る (マタ 2 : 2)。そしてメシアの王国では、ユダヤ人のみならず、全世界を治める。
2. イエスをその王である、と神が認めた出来事が、3つ続いて起きた。
 - (1) イエスがヨルダン川で先駆者ヨハネから洗礼を受けたときに、聖霊なる神が鳩の姿で現れ、父なる神の声が天から響いた。
 - (2) イエスが、荒野で 40 日間、サタンの誘惑を受けて、これを退けた。
 - (3) 先駆者ヨハネが、荒野から戻って来たイエスを指して、メシアであると証言した。
3. 第三の出来事に続いて、イエスの初期の弟子たち 5 人がそろった。
4. 先駆者ヨハネの証言から 7 日目、ガリラヤの**カナ**にて、イエスは最初の奇跡を行った。
5. その後、イエスは母や弟たち、そして 5 人の弟子たちといっしょに、ガリラヤ湖畔の町カペナウムに下って行き、長い日数ではなかったが、そこに滞在した(ヨハネ 2:12)。メシアとして立つ前の、最後の家族旅行であった。
6. カペナウムに滞在してから間もなく、春の過越の祭りが近づいた。
7. 紀元 27 年の春、イエスは、5 人の弟子たちを連れてエルサレムに上った。神殿域に入ると、そこにいた商売人たちを追い出して神殿を一時占拠し、自分がメシアであると宣言した。そして、過越の祭りの期間中、多くのしるしを人々の前で行った。
8. そのようなしるしを見た人々の中に、ユダヤ教パリサイ派の有力者のひとり、ニコデモがいた。イエスに面会を求めてきたニコデモに応じて、イエスは、御霊によって新しく生まれることが、神の国に入るために必要であることを教えた。・・・第 7 回は、このニコデモとの対話の中での、イエスのことばを取り上げた。
9. この後、先駆者ヨハネがガリラヤとペレアの領主ヘロデ・アンテパスに逮捕され、ヨルダン川東側のペレアで牢に入れられるという事件が起きた。
10. イエスは、ユダヤを去って、再びガリラヤに向かった (ヨハネ 4 : 1~5)。そのとき、イエスと 5 人の弟子たちは、「サマリアを通過していかなければならなかった」(4 節)。ペレアを通るのは避けたためである。スカルという町のサマリア人たちが、イエスをメシアとして信じた。
11. ユダヤからサマリア経由でガリラヤに戻ったあと、イエスは宣教を開始した。
12. 以上で、イエスが宣教開始するまでの経緯を見た。今回からは、イエスが幾つもの出来事を通してメシアとしての権威を現わす時期に入る。本日は、病の癒しに関する権威を現わした出来事、**カナ**での「遠距離かつ即時」の病の癒しである。

□イエスの公生涯の起承転結

起：受洗から、**メシア宣言**を経て、宣教開始まで

承：メシアとしての権威を現わすも、指導者層の拒否を受ける

転：弟子訓練

結：エルサレム入城から**十字架**、復活、昇天

□本日のアウトライン 聖書箇所 ヨハネ 4：46～54

A) カナへの2回目の訪問 (4：46)

B) 王室の役人の来訪 (4：46～47)

C) イエスと役人との対話 (4：48～50)

D) 子どもが癒されたとの報告 (4：51～54)

A) カナへの2回目の訪問 (ヨハネ 4：46)

46節「イエスは**再び**ガリラヤのカナに行かれた。イエスが水をぶどう酒にされた場所である」

(1) 下線部は、イエスの最初の奇跡 (ヨハネ 2：1～11)

- ① ガリラヤのカナで婚礼の祝宴があり、イエスと弟子たち (5人) も招かれた。
- ② 披露宴は数日続く。その途中で、ぶどう酒がなくなった。そのとき、イエスは水がめに入れた水をぶどう酒に変えるという奇跡をおこなった。
- ③ これは、イエスがエルサレムでメシア宣言する前の出来事

(2) メシア宣言は、ヨハネ 2：13～22

(3) イエスは、メシア宣言に引き続き、多くの奇跡をエルサレムにて行った。ヨハネ 2：23、「過越の祭りの祝いの間、イエスがエルサレムにおられたとき、多くの人々がイエスの行われたしるしを見て、その名を信じた。」

(4) よって、今回のカナへの訪問は、2回目である。「**再び**」とはそのこと。

B) 王室の役人の来訪 (ヨハネ 4：46～47)

46節のつづきから 47節 「さてカペナウムに、ある王室の役人がいて、その息子が病気であった。この人は、イエスがユダヤからガリラヤに来られたと聞いて、イエスのところに行った。そして、下って来て息子を癒してくださるよう願った。息子が死にかかっていたのである。」

(1) 王室とは、ガリラヤとペレヤの領主、ヘロデ・アンテパスの王室である。先駆者ヨハネは、彼によりペレヤで拘束されていた。その王室の役人が、息子の重病を癒してもらおうとして、イエスのところに向いてきた。

- (2) 「下って来て息子を癒してくださるように」・・・「下って来て」というのは、カナとカペナウムとの地理的關係を示している。カナの標高は海拔約450メートル、カペナウムはガリラヤ湖の湖畔にある町で、海拔約マイナス180メートル。その標高差は約630メートル。カナからカペナウムへは距離約32km、下りのルートになる。

C) イエスと役人との対話（ヨハネ4：48～50）

- (1) 48節 イエスは彼に言われた。「あなたがたは、しるしと不思議を見ないかぎり、決して信じません。」
- ① イエスは「あなたは」とは言わずに、「あなたがたは」とイスラエルの民、ユダヤ人全体を指している。
- ② イエスの真意は、役人の動機を明らかにすること。イエスに来てくださいと願っているが、その動機は何か。
- (2) イエスのことばに対して、役人は、「そのとおりです。何かしるしを見せてください」とは言わなかった。役人は次のように答えた。49節 「主よ。どうか子どもが死なないうちに、下って来てください。」 役人の動機はどこにあるのか？
- (3) 癒しを求めて来る人の動機として、考えられるのは、次の3つである。
- ① 1番目は、信者としての動機。この役人は、すでにイエスをメシアとして信じている。そして、イエスなら、死にかけている息子を癒すことができると確信している。
- ② 2番目は、そこまでの確信はない。息子の癒しを通して、イエスをメシアであるとの確信を持ちたいという動機。
- ③ 3番目は、不信者としての動機。イエスがメシアであるかどうか、疑っている。しかし、イエスは多くの奇跡をしているとの評判だから、ここで息子を癒してもらえるなら、ありがたいという動機。
- (4) 3番目の動機では、その場で何かしるしを求める傾向がある。役人はそうはしなかったが、それだけでは動機はわからない。イエスは、役人の動機を明らかにするために、次のことばを發した。
- (5) 50節 イエスは彼に言われた。「行きなさい。あなたの息子は治ります。」その人はイエスが語ったことばを信じて、帰って行った。
- ① 当時のユダヤ教の指導者たちが病人の癒しを祈るときには、病人の枕元に来て、手を置いて祈るのが通例であった。役人は、イエスも病人を癒すときには、病人の枕元まで来て、手を置いて祈るとか、何かをしてくださるのだろうと、思い描いていた。だから、「来てください」と願ったのである。
- ② 病気の癒しに関するメシアの権威
- イエスは、自分が約32km離れたカペナウムまで下って行く必要はない、

そして癒しについては、そうなる一言で済ませた。

- このような遠隔での癒しは、当時のラビたちの記録にはもちろん、旧約聖書の中ですら起きたことがない。
- ③ 役人は、「イエスが語ったことばを信じて、帰って行った」。彼の動機は、1番目の信者としての動機であったことが推察される。神に喜ばれる信仰である。

D) 子どもが癒されたとの報告（ヨハネ4：51～54）

(1) 51～53節 彼が下っていく途中、しもべたちが彼を迎えに来て、彼の息子が治ったことを告げた。子どもが良くなった時刻を尋ねると、彼らは「昨日の第七の時に熱が引きました」と言った。父親は、その時刻が、「あなたの息子は治る」とイエスが言われた時刻だと知り、彼自身も家の者たちもみな信じた。

- ① この箇所で注目すべきは、下線部の「昨日の」である。役人は、イエスと対話した日は、カナで一泊し、翌日カナを発って、カペナウムへの帰途についていたことがわかる。→ 役人は、息子は死なない、必ず治ると信じて、安心してその日はカナに泊まり、翌日帰途についた。ここには、問題の中でも信者が平安を持つ、その事実を見ることができる。
- ② 翌日、帰途につくと、途中で家のしもべたちと会った。彼らは、息子が良くなったので、そのことをカナに出向いている主人に報告しようと向かって来たのであった。役人がしもべたちに、子どもが良くなった時刻を尋ねると、その時刻は、ちょうど前日にイエスが「あなたの息子は治る」と言った時刻であった。イエスの癒しは、遠距離かつ即時の癒しであった。
- ③ 「彼自身も家の者たちもみな信じた」・・・原文をその語順のとおり直訳すると、「そして彼は信じた、彼自身が、そして彼の家の全体が」
 - 「彼は信じた」というのは動詞1語
 - 役人の信仰は、イエスのもとに出向いたときにすでに信じていたが、イエスのことばを信じて、さらに信仰は成長した。
 - 遠距離かつ即時の癒しを目撃して、またさらに彼の信仰は成長した。
 - そして彼の家の者全員が信じて、救われた。

(2) 54節 「イエスはユダヤを去ってガリラヤに来てから、これを**第二のしるし**として行われた。」

- ① 2：11 「イエスはこれを最初のしるしとしてガリラヤのカナで行い、」・・・水をぶどう酒に変えた奇跡は、イエスの最初の奇跡であり、カナでの第1回目の奇跡であった。
- ② 2：23 その後、イエスは、エルサレムにて奇跡を行った
- ③ 「第二のしるし」・・・**カナでの2回目の奇跡**